



広大通信

【連絡先】

広島大学広報室
739-8511 東広島市鏡山 1-3-2
TEL : 082-424-3701
FAX : 082-424-6040
Email : koho@office.hiroshima-u.ac.jp

越智光夫学長 3期目にあたつての所信表明



引き続きまして4月1日から広島大学長を拝命いたしました。第12代学長に就任して以来8年間、学生、教職員、広島大学のために粉骨砕身取り組んできたつもりです。

運営費交付金の削減や競争的資金の拡大をはじめ、大学を取り巻く環境が一段と厳しさを増す中、教育研究環境の充実強化を図ることができました。

教職員の皆様方のご理解とご協力の賜物であり、あらためて心より感謝申し上げます。

今、広島大学は研究大学としての魅力に満ちた大学になれるか否かの分岐点に立っています。これまでの取り組みを踏まえ、3期目にあたつての所信を述べたいと思います。

広島大学は昨年1月に策定した「第4期中期目標期間における広島大学のありべき姿」が示すように、世界トップクラスの教育研究拠点を構築し、地域社会と国際社会を繋ぐ知的拠点として、また海外大学誘致や「Low & Green」構想を推進し、地方共創の主役を担うとともに自由で平和な国際社会の実現に貢献する人材育成に努めてまいります。以下、教育、研究、産学連携、大学改革のテーマごとに申し述べます。

〈教育〉

まず、教育についてです。
授業は原則対面で実施します。
私は学長就任以来、「平和を希求し、チャレンジする国際的教養人の育成」を掲げてまいりました。平和は、広島に開学し「平和を希求する精神」を理念とする広島大学の変わらぬ立脚点です。
教養教育では「世界に羽ばたく。教養の力」、「知を鍛える」広大名講義100選

などを深化させます。今後はさらに課題探索型の教育を推し進めます。

高大接続を一層進めながら、真に志ある人を採れるよう入試改革も含めて検討します。

今、わが国ではIT人材の不足による高度情報専門人材の確保と、国際人材の育成が急務となっています。平成30年4月に情報科学部と総合科学部国際共創学科を新設し、すでに2年間卒業生を送り出しています。

加えて今年度から情報科学部の地域枠定員が50人認められたことは地域のみなならず、日本全体にとつて画期的と言えます。これを基に全学的にデジタル人材の育成を進めます。近隣にマイクロン社などがある地の利を生かして半導体分野の人材育成にも努め、地域産業の活性化や国のDX推進に貢献していきます。

法学部は今月、法科大学院との連携強化、社会のダイナミズムを教育研究に取り入れるべく東千田キャンパスに移転しました。在学生には不便をお掛けするかもしれませんが、「東千田で学んでよかった」と思えるよう教育環境の充実に努めます。他の学部についても、時代の要請を先取りできるよう、求められる人材像やカリキュラムの見直しを行います。

霞キャンパスでは昨年末に完成した「凌雲棟」での授業が始まっています。放射線影響研究所の学内移転も決まり、基礎研究の充実とともに医療人養成の拠点として一層の高度化を進めます。

大学院については「ゲノム編集先端人材育成プログラム」が平成30年度卓越大学院プログラムに採択され、平成31年度・令和2年度に4研究科への再編・

統合を完了しました。今月には4研究科が連携した「スマートソサイエティ実践科学研究院」を新設しました。研究科再編・統合後の検証を行い、学位プログラムの見直しも柔軟に検討したいと考えます。

海外留学は多様性を受け入れ、柔軟なコミュニケーション能力を身に付けた絶好の機会です。コロナ禍で設けた「SAFE」プログラムも併用しながら、再開した「SAFE」プログラムをはじめ留学機会を増やしていきます。

昨年から学生受け入れを開始したアリゾナ州立大学サンダーバードグローバル経営学部広島大学グローバル校は、今後、在学生が増えていきます。異なるバックグラウンドを持つ人々と交流できる環境を十分活用したいと思っています。また、海外拠点の機能強化を図り、留学生の受け入れを促進していきます。

〈研究〉

次は研究についてです。

最終評価でトップ評価Sをいただいた研究大学強化促進事業、スーパーグローバル大学創成支援事業（トップ型）等を活用した研究支援体制の強化と大型競争的資金の獲得によって、卓越した研究拠点を次々に形成することができました。内閣府「地方大学・地域産業創生交付金」「地方創生推進交付金」を獲得した「デジタルものづくり」、科学技術振興機構（JST）の「ムーンショット型研究開発事業」に選ばれた脳科学と音楽をテーマにした「感性脳科学」、科学技術振興機構（JST）の「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」の本格型に採択された「バイオ×産学共創拠点」（ゲノム編集 など、多岐にわた

っています。

なかでも令和4年度世界トップレベル研究拠点プログラム（毛）に採択された「持続可能性に寄与するキラルノット超物質拠点」は、中四国の大学・機関で初の採択となりました。10年間で70億円の大規模資金を活用し、ケンブリッジ大学、マサチューセッツ工科大学、マックスプランク研究所など世界最高峰の研究機関からトップ研究者11人を招聘します。世界水準の研究成果発信はもとより、学内研究者との共同研究を通じて本学の研究力向上にもつながると期待しています。

第4期中期目標期間においては「安心・安全・創る平和」をテーマに、先月の部局長等意見交換会で伺ったご意見を踏まえ、世界が直面する課題に、「総合知」でチャレンジする5つの重点的事業を作成中です。

「SC」論文数は毎年上がり続け、2021年は前年度より39%報多い3,031報となり、本務教員一人当たりの発行論文数が「1」の報となるなど、研究業績は年を追って上がっています。エッジの効いた研究が少しずつ実を結びつつあることを実感しています。昨年4月



(4月5日に霞キャンパスで行った記者会見)